

## MSM に対する検査提供と介入の効果評価 -受検者アンケートの分析-

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 准教授）

### 研究要旨

北海道、東北、東京、神奈川、東海、大阪、中四国、福岡、沖縄の9地域で郵送検査を実施した。対面配布とWEB配布（WEBで申し込み、自宅または郵便局等での受け取り）を組み合わせて実施した。申込者には、受検者WEBアンケートへの回答も依頼した。基本属性、HIV検査経験、商業施設の利用、性行動、性感染症の既往について尋ねた。また全回答者にユニークな個人IDをアンケート回答終了画面に発行し、そのIDを検査申し込み時のIDとして記載することを任意で依頼した。本研究では、アンケートには回答したが、キットを受け取らなかったもの・検体を送付しなかったものと実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送したものの2群の比較と、検査結果とアンケート結果を紐づけできた回答者の年齢別の比較を行った。

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したものが、アンケート回答のみのものより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。

検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。検査結果でHIVまたは梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIV陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名（7/72）、25-34歳で16名（16/248）であった。結果ページには全体のうち97%がログインしていた。

### A. 研究目的と背景

日本では、UNAIDSのエイズ終結に向けた戦略であるケアカスケードの第1段階の90を達成できていない。MSMにおいては、HIV感染リスクがあるものの定期検査受検の普及に課題がある。このことも踏まえ、感染リスクの高い層に焦点をあてた介入を積極的に展開していく必要が高まっている。2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、MSMの保健所でのHIV検査機会も全国的には約7割減少し、エイズ発症割合も増加している。また予防啓発の拠点であるコミュニティセンターの開館時間も大幅に短縮となり、ゲイ向け商業施設やイベントも激減し、啓発普及の変更を余儀なくされた。一方で保健所等の検査機会も縮小する場合も多く、潜在的なHIV検査ニーズは高まっている。郵送検査には自宅で都合の良い時

間に受けられるメリットもあるが、支援や情報提供が不足しがちになるデメリットもある。本研究では、6箇所のコミュニティセンターを中心に日本9地域で郵送検査を実施し、三密を避けながら保健所以外の場所で、検査を受けられる方策の整備および受検者アンケート体制の構築、オールジャパン統一で広報体制を構築することを目的とした。

### B. 研究方法

北海道、東北、東京、神奈川、東海、大阪、中四国、福岡、沖縄の9地域で郵送検査を実施した。コミュニティセンターや臨時会場における対面配布、またWEB広報を行い、WEBで申し込み、自宅または郵便局等での受け取り可能なWEB配布も実施した。申込者には、受検者アンケートへの回答も依頼した。受検者アンケート

は、スマートフォン、タブレット、PCで回答可能なWEBアンケートとした。年齢、国籍、居住地、セクシュアリティ、居住形態、検査経験、商業施設の利用、性行動、性感染症の既往について尋ねた。また全回答者にユニークな個人IDを回答終了画面に発行し、そのIDを検査申し込み時のIDとして記載することを依頼した。このことにより検査結果とアンケート結果の紐づけが可能となる。しかしこの個人IDを検査申し込みIDと一致させることは任意とした。またアンケート参加事態も任意とした。

本研究では、A:アンケートには回答したが、キットを受け取らなかったもの・検体を送付しなかったものと B:実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送したものの2群の比較と、検査結果とアンケート結果を紐づけできた回答者の年齢別の比較を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

### C. 研究結果

#### 1) A:アンケート回答のみと B:実際に検査を利用した2群の比較

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。

年齢には有意差が見られ、25-34歳の方が実際に検査を利用した割合が高かった。居住地にも差が見られた。地域別にみると東北地域、中四国、九州地域では、アンケート回答のみにとどまったものと検査利用者の比が小さく、アンケート回答のみにとどまらず、実際に検査を利用し感染ステータスを確認したいニーズが高かった。

全体では94.9%が居住地のNGO・団体が宣伝する啓発により検査を知り、検査キットの申し込みを行っていた。

これまでの検査経験は実際に検査を利用したもののほうが高く、有意差が見られた。

実際に検査を利用したもののうち、8.7%がMSM対象の予防啓発やコミュニティセンターを全く知らなかったものであり、32.8%はあまり知らなかったと回答していた。

HIV予防のためのPrEPは検査を利用したもののほうが有意に認知が高かった。また使用意図も有意に検査利用者の方が高かった。

#### 2) 検査結果とアンケート結果の連結に同意し

#### た者における年齢別の比較

外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。PrEPの認知は、年齢が高い方が高い傾向が見られた。

実際の検査結果でHIVまたは梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIVについて陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名(7/72)、25-34歳で16名(16/248)、35-44歳で10名(10/177)、であった。梅毒とHIVの重複の事例が24歳以下で1名(1/72)、25-34歳以下で3名(3/248)であった。結果ログイン状況については、全体では97%がログインしていた。また全体のうち、86.6%が結果通知から7日以内に確認していた。

### D. 考察

#### 1) A:アンケート回答のみと B:実際に検査を利用した2群の比較

アンケート回答のみと実際に検体を送付したものの比較では、年齢が若い層の方がより実際に送付していることがわかった。性行動のアクティブ度が関係している可能性がある。また、有意差はないが外国籍の方が実際に送付した割合が高く、実際の検査受検ニーズが高いことがうかがわれる。次年度もどう多言語対応、配慮するか、検討が必要である。一人暮らしの方が実際に送付している傾向があった。プライバシーの問題などもあると思われ、次回の配布に配慮すべきと考えられた。これまでにHIV検査経験があるものの方が実際に送付しており、慣れている人の方がゆうそう検査にとっかかりやすい可能性が示された。

PrEP認知者の方が実際に検査を利用している(検査を利用した人の方がPrEPのことを知っている)ことが示され、新しい情報をキャッチしている人の方がゆうそう検査利用へのハードルも低い可能性が考えられた。

#### 2) 検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較

検査結果とアンケート結果の連結に同意した回答は603件であった。外国籍者の占める割合は34歳未満群に高く、性行動が活発で感染リスクがあり、検査機会を探している外国籍MSMが一定数いることが考えられた。多言語対応まではできていないため、今回の検査にアク

セスがあったものは一定の日本語能力の理解があるものと考えられる。今後は日本語が母語でないものへの対応、必要時は必要な専門家につながるなど対応を考えていく必要がある。過去6か月にアプリで出会ったものとの性交渉経験は35歳未満層に多かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。PrEPの認知は、年齢が高い方が高い傾向が見られた。年齢が高い方が様々な予防啓発の情報のチャンネルが多く、新しい情報を収集している可能性が考えられた。

実際の検査結果で HIV または梅毒がいずれか陽性であったものは97名であり保健所等の検査よりも効率の陽性割合であることが示された。HIV について陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であり、若い年齢層であった。梅毒は24歳以下で初めて感染を知ったものが7名(7/72)、25-34歳で16名(16/248)であり若い方が初めて感染を認知した割合が高かった。梅毒の検査提供の重要性が示されたといえよう。コンドーム使用率が若い年齢層で20%と非常に落ち込んでいることを考えると、梅毒の感染拡大が危惧され、早急な対策を考案する必要が考えられた。結果ログイン状況については、全体では97%にログイン歴であった

## E. 結論

アンケートには回答したが、検体を送付しなかったものは全体で417件、実際に検査キットを取り寄せ検体を郵送した回答者は631件であった。実際に検査を利用したもののほうが、アンケート回答のみのもより若く、HIV検査経験があり、PrEP認知が高かった。検査結果とアンケート結果の連結に同意した者における年齢別の比較では、外国籍者の占める割合は34歳未満群に高かった。過去6か月のコンドーム常用は24歳以下では15.3%、25-34歳では20.2%にとどまった。

検査結果で HIV または梅毒がいずれか陽性であったものは97名であった。HIV陽性が判明した11名のうち3名は24歳以下、7名は25-34歳であった。結果ページには全体のうち97%がログインしていた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa:

Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.
- 3) ○金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来院するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) ○宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) ○金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

### 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

### 3. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB開催, 2020

- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代：乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣：ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020
- 4) 井上洋土、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代：成人前期（20 歳代）MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面

接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020

- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会，WEB 開催，2020

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表 1-1 アンケート回答のみのものと検体送付者の比較①

	アンケート回答のみ n=417		検査利用 n=631		合計 n=1048		Pearson カイ2乗
年齢階級 (35.2歳±9.9歳,18歳-71歳)							
24歳以下	68	16.3%	76	12.0%	144	13.7%	<b>0.02</b>
25-34歳	143	34.3%	261	41.4%	404	38.5%	
35-44歳	114	27.3%	186	29.5%	300	28.6%	
45歳以上	92	22.1%	108	17.1%	200	19.1%	
国籍 <sup>1)</sup>							
日本	409	98.1%	602	95.4%	1011	96.5%	0.15
アジア	6	1.4%	20	3.2%	26	2.5%	
欧米	1	0.2%	4	0.6%	5	0.5%	
その他	1	0.2%	5	0.8%	6	0.6%	
居住地							
北海道	31	7.4%	76	12.0%	107	10.2%	<b>&lt;0.01</b>
東北	78	18.7%	87	13.8%	165	15.7%	
関東	106	25.4%	204	32.3%	310	29.6%	
北陸・甲信越	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	
東海	24	5.8%	48	7.6%	72	6.9%	
近畿	35	8.4%	65	10.3%	100	9.5%	
中国・四国	77	18.5%	56	8.9%	133	12.7%	
九州	65	15.6%	92	14.6%	157	15.0%	
啓発対象地域の利用 <sup>2)</sup> (再掲)							
対象地域	394	94.5%	601	95.2%	995	94.9%	0.58
それ以外の地域	23	5.5%	30	4.8%	53	5.1%	
性別 <sup>3)</sup>							
男性	413	99.0%	624	98.9%	1037	99.0%	0.58
女性	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	
トランスジェンダー	2	0.5%	4	0.6%	6	0.6%	
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
セクシュアリティ							
ゲイ (男性同性愛者)	309	74.1%	466	73.9%	775	74.0%	0.18
バイセクシュアル (両性愛者)	91	21.8%	135	21.4%	226	21.6%	
ヘテロセクシュアル (異性愛者)	4	1.0%	6	1.0%	10	1.0%	
わからない	12	2.9%	11	1.7%	23	2.2%	
決めたくない	0	0.0%	10	1.6%	10	1.0%	
レズビアン (女性同性愛者)	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	
その他	1	0.2%	2	0.3%	3	0.3%	
居住形態							
独居	233	55.9%	382	60.5%	615	58.7%	0.22
同居	184	44.1%	248	39.3%	432	41.2%	
定住先はない	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%	
これまでのHIV検査 (エイズ検査) 経験							
ある	283	67.9%	486	77.0%	769	73.4%	<b>&lt;0.01</b>
ない (今回が初めての検査)	134	32.1%	145	23.0%	279	26.6%	
過去1年のHIV検査 (エイズ検査) 経験							
ある	127	30.5%	195	30.9%	322	30.7%	0.88
ない	290	69.5%	436	69.1%	726	69.3%	
過去1年の受検場所 <sup>4)</sup> (複数回答)							
保健所	62	14.9%	115	18.2%	177	16.9%	0.16
病院/クリニック	33	7.9%	38	6.0%	71	6.8%	
郵送検査	28	6.7%	36	5.7%	64	6.1%	0.50
その他	24	5.8%	33	5.2%	57	5.4%	
過去6か月間の利用施設 (複数回答)							
ゲイバー	130	31.2%	196	31.1%	326	31.1%	0.97
ゲイイベント	23	5.5%	25	4.0%	48	4.6%	
ゲイショップ	26	6.2%	36	5.7%	62	5.9%	0.72
有料のハッテン場	107	25.7%	148	23.5%	255	24.3%	
野外のハッテン場	47	11.3%	58	9.2%	105	10.0%	0.27
いずれもない	202	48.4%	316	50.1%	518	49.4%	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、スリランカ、インドネシア、フィリピン 欧米；アメリカ、オーストラリア、フランス その他；コロンビア、不明。

2) 啓発対象地域とは、北海道；北海道、東北；1道6県、東京/神奈川；1都6県、愛知；4県、大阪；2府4県、中国・四国；9県、福岡；7県、沖縄；沖縄県の居住地による。

3) 女性は、ヘテロセクシュアル 2名、同性愛者 1名を含む。トランスジェンダーの内訳は、MTF 1名、FTM 5名。その他は、ジェンダーフリーと回答。

4) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表 1-2 アンケート回答のみのものと検体送付者の比較②

	アンケート回答のみ n=417		検査利用 n=631		合計 n=1048		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく知っている	80	19.2%	120	19.0%	200	19.1%	0.72
少し知っている	161	38.6%	249	39.5%	410	39.1%	
あまり知らない	131	31.4%	207	32.8%	338	32.3%	
全く知らない	45	10.8%	55	8.7%	100	9.5%	
過去6カ月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	361	86.6%	563	89.2%	924	88.2%	0.19
ない	56	13.4%	68	10.8%	124	11.8%	
過去6カ月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	90	21.6%	147	23.3%	237	22.6%	0.52
友達やセクフレ	237	56.8%	389	61.6%	626	59.7%	0.12
その場限りの相手	196	47.0%	271	42.9%	467	44.6%	0.20
過去6カ月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	305	73.1%	468	74.2%	773	73.8%	0.71
ない	112	26.9%	163	25.8%	275	26.2%	
過去6カ月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	104	24.9%	148	23.5%	252	24.0%	0.58
ない	313	75.1%	483	76.5%	796	76.0%	
過去6カ月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	80	19.2%	115	18.2%	195	18.6%	0.70
ない	337	80.8%	516	81.8%	853	81.4%	
過去6カ月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	20	4.8%	23	3.6%	43	4.1%	0.36
ない	397	95.2%	608	96.4%	1005	95.9%	
過去6カ月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	16	3.8%	19	3.0%	35	3.3%	0.47
ない	401	96.2%	612	97.0%	1013	96.7%	
過去6カ月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	3	0.7%	8	1.3%	11	1.0%	0.39
ない	414	99.3%	623	98.7%	1037	99.0%	
過去6カ月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	295	70.7%	441	69.9%	736	70.2%	0.20
常用	66	15.8%	122	19.3%	188	17.9%	
過去6ヶ月間がない	56	13.4%	68	10.8%	124	11.8%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	254	60.9%	432	68.5%	686	65.5%	<b>0.01</b>
知らない	163	39.1%	199	31.5%	362	34.5%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	48	11.5%	81	12.8%	129	12.3%	<b>0.04</b>
服薬したい/どちらかといえば	206	49.4%	351	55.6%	557	53.1%	
知らない	163	39.1%	199	31.5%	362	34.5%	
過去6カ月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	22	5.3%	40	6.3%	62	5.9%	0.48
ない	395	94.7%	591	93.7%	986	94.1%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	42	10.1%	65	10.3%	107	10.2%	0.90
A型肝炎	3	0.7%	9	1.4%	12	1.1%	0.29
B型肝炎	17	4.1%	34	5.4%	51	4.9%	0.33
C型肝炎	1	0.2%	3	0.5%	4	0.4%	0.54
クラミジア	45	10.8%	65	10.3%	110	10.5%	0.80
尖圭コンジローマ	21	5.0%	41	6.5%	62	5.9%	0.33
淋病	23	5.5%	36	5.7%	59	5.6%	0.90
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	4	0.6%	4	0.4%	0.10
毛じらみ	106	25.4%	147	23.3%	253	24.1%	0.43
性器ヘルペス	13	3.1%	12	1.9%	25	2.4%	0.21
その他	5	1.2%	8	1.3%	13	1.2%	0.92
いずれもない	247	59.2%	344	54.5%	591	56.4%	0.13

表 2-1 年齢別の比較①（アンケート ID と検体 ID 一致者のみ）

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603		Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>
<b>居住地</b>											
北海道・東北	22	30.6%	57	23.0%	47	26.6%	27	25.5%	153	25.4%	0.77
関東	16	22.2%	79	31.9%	63	35.6%	37	34.9%	195	32.3%	
北陸・甲信越	1	1.4%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.5%	
東海	3	4.2%	23	9.3%	13	7.3%	8	7.5%	47	7.8%	
近畿	8	11.1%	25	10.1%	17	9.6%	11	10.4%	61	10.1%	
中国・四国	6	8.3%	24	9.7%	15	8.5%	9	8.5%	54	9.0%	
九州	16	22.2%	38	15.3%	22	12.4%	14	13.2%	90	14.9%	
<b>CBO<sup>2)</sup></b>											
にじいろほっかいどう（北海道）	9	12.5%	20	8.1%	21	11.9%	18	17.0%	68	11.3%	0.36
やろっこ/ZEL（東北）	13	18.1%	41	16.5%	25	14.1%	12	11.3%	91	15.1%	
NPO法人akta/akta（東京）	6	8.3%	30	12.1%	18	10.2%	14	13.2%	68	11.3%	
NPO法人SHIP（神奈川）	11	15.3%	41	16.5%	42	23.7%	21	19.8%	115	19.1%	
ANGEL LIFE NAGOYA/rise（愛知）	4	5.6%	23	9.3%	12	6.8%	9	8.5%	48	8.0%	
mash大阪/dista（大阪）	7	9.7%	27	10.9%	20	11.3%	10	9.4%	64	10.6%	
HaaTえひめ/BRIDGE（中国・四国）	6	8.3%	27	10.9%	17	9.6%	8	7.5%	58	9.6%	
HACO/HACO（福岡）	13	18.1%	30	12.1%	10	5.6%	10	9.4%	63	10.4%	
nankr沖縄/mabui（沖縄）	3	4.2%	9	3.6%	12	6.8%	4	3.8%	28	4.6%	
<b>啓発対象地域の利用<sup>3)</sup></b>											
対象地域	70	97.2%	232	93.5%	171	96.6%	101	95.3%	574	95.2%	0.41
それ以外の地域	2	2.8%	16	6.5%	6	3.4%	5	4.7%	29	4.8%	
<b>国籍</b>											
日本	67	93.1%	229	92.3%	172	97.2%	106	100.0%	574	95.2%	<b>0.01</b>
海外 <sup>4)</sup>	5	6.9%	19	7.7%	5	2.8%	0	0.0%	29	4.8%	
<b>セクシュアリティ</b>											
ゲイ（男性同性愛者）あるいはMSM <sup>5)</sup>	56	77.8%	190	76.6%	145	81.9%	81	76.4%	472	78.3%	0.46
バイセクシュアル（両性愛者）	16	22.2%	57	23.0%	29	16.4%	24	22.6%	126	20.9%	
その他	0	0.0%	1	0.4%	3	1.7%	1	0.9%	5	0.8%	
<b>居住形態</b>											
独居（定住先はないを含む）	34	47.2%	157	63.3%	120	67.8%	60	56.6%	371	61.5%	<b>0.01</b>
同居	38	52.8%	91	36.7%	57	32.2%	46	43.4%	232	38.5%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>											
ある	38	52.8%	194	78.2%	148	83.6%	89	84.0%	469	77.8%	<b>&lt;0.01</b>
ない（今回が初めての検査）	34	47.2%	54	21.8%	29	16.4%	17	16.0%	134	22.2%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>											
ある	22	30.6%	80	32.3%	62	35.0%	26	24.5%	190	31.5%	0.32
ない	50	69.4%	168	67.7%	115	65.0%	80	75.5%	413	68.5%	
<b>過去1年の受検場所<sup>6)</sup></b>											
保健所	15	20.8%	46	18.5%	36	20.3%	16	15.1%	113	18.7%	0.70
病院/クリニック	4	5.6%	15	6.0%	12	6.8%	6	5.7%	37	6.1%	0.98
郵送検査	4	5.6%	18	7.3%	8	4.5%	6	5.7%	36	6.0%	0.70
その他	4	5.6%	11	4.4%	15	8.5%	1	0.9%	31	5.1%	<b>0.04</b>
<b>過去6か月間の利用施設（複数回答）</b>											
ゲイバー	24	33.3%	75	30.2%	60	33.9%	28	26.4%	187	31.0%	0.58
ゲイイベント	7	9.7%	9	3.6%	3	1.7%	5	4.7%	24	4.0%	<b>0.03</b>
ゲイショップ	4	5.6%	15	6.0%	9	5.1%	5	4.7%	33	5.5%	0.95
有料のハッテン場	18	25.0%	59	23.8%	38	21.5%	27	25.5%	142	23.5%	0.86
野外のハッテン場	7	9.7%	18	7.3%	19	10.7%	11	10.4%	55	9.1%	0.61
いずれもない	37	51.4%	130	52.4%	82	46.3%	55	51.9%	304	50.4%	0.64

表 2-2 年齢別の比較② (アンケート ID と検体 ID 一致者のみ)

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603	Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>	
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターの認知											
全く/あまり知らない	38	52.8%	96	38.7%	74	41.8%	43	40.6%	251	41.6%	0.20
よく/少し知っている	34	47.2%	152	61.3%	103	58.2%	63	59.4%	352	58.4%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？											
ある	67	93.1%	232	93.5%	156	88.1%	86	81.1%	541	89.7%	<0.01
ない	5	6.9%	16	6.5%	21	11.9%	20	18.9%	62	10.3%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？ (複数回答)											
彼氏や恋人	18	25.0%	68	27.4%	39	22.0%	18	17.0%	143	23.7%	0.18
友達やセクフレ	44	61.1%	157	63.3%	111	62.7%	64	60.4%	376	62.4%	0.95
その場限りの相手	33	45.8%	107	43.1%	78	44.1%	40	37.7%	258	42.8%	0.68
過去6か月間の相手のタイプ数 (再掲)											
複数ある	23	31.9%	88	35.5%	64	36.2%	34	32.1%	209	34.7%	0.85
複数ではない	49	68.1%	160	64.5%	113	63.8%	72	67.9%	394	65.3%	
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験											
ある	58	80.6%	196	79.0%	127	71.8%	69	65.1%	450	74.6%	0.02
ない	14	19.4%	52	21.0%	50	28.2%	37	34.9%	153	25.4%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験											
ある	18	25.0%	59	23.8%	40	22.6%	24	22.6%	141	23.4%	0.97
ない	54	75.0%	189	76.2%	137	77.4%	82	77.4%	462	76.6%	
過去6か月間の複数人 (3人以上) でのセックス経験											
ある	11	15.3%	43	17.3%	38	21.5%	20	18.9%	112	18.6%	0.62
ない	61	84.7%	205	82.7%	139	78.5%	86	81.1%	491	81.4%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験											
ある	3	4.2%	4	1.6%	8	4.5%	7	6.6%	22	3.6%	0.11
ない	69	95.8%	244	98.4%	169	95.5%	99	93.4%	581	96.4%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験											
ある	5	6.9%	7	2.8%	3	1.7%	3	2.8%	18	3.0%	0.18
ない	67	93.1%	241	97.2%	174	98.3%	103	97.2%	585	97.0%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ (ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ) 使用経験											
ある	0	0.0%	5	2.0%	2	1.1%	1	0.9%	8	1.3%	0.56
ない	72	100.0%	243	98.0%	175	98.9%	105	99.1%	595	98.7%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用											
非常用	56	77.8%	182	73.4%	119	67.2%	69	65.1%	426	70.6%	0.02
常用	11	15.3%	50	20.2%	37	20.9%	17	16.0%	115	19.1%	( 0.16 )
過去6ヶ月間がない	5	6.9%	16	6.5%	21	11.9%	20	18.9%	62	10.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」認知											
知っている	39	54.2%	173	69.8%	124	70.1%	78	73.6%	414	68.7%	0.04
知らない	33	45.8%	75	30.2%	53	29.9%	28	26.4%	189	31.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用意図											
服薬したくない/どちらかといえば	7	9.7%	32	12.9%	23	13.0%	12	11.3%	74	12.3%	0.18
服薬したい/どちらかといえば	32	44.4%	141	56.9%	101	57.1%	66	62.3%	340	56.4%	
知らない	33	45.8%	75	30.2%	53	29.9%	28	26.4%	189	31.3%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP, プレップ) 」使用経験											
ある	0	0.0%	20	8.1%	11	6.2%	8	7.5%	39	6.5%	0.10
ない	72	100.0%	228	91.9%	166	93.8%	98	92.5%	564	93.5%	

表 2-3 年齢別の比較③ (アンケート ID と検体 ID 一致者のみ)

	24歳以下 n=72		25-34歳 n=248		35-44歳 n=177		45歳以上 n=106		合計 n=603	Pearson カイ2乗 <sup>1)</sup>	
性感染症既往 (複数回答)											
梅毒	4	5.6%	25	10.1%	17	9.6%	19	17.9%	65	10.8%	<b>0.04</b>
A型肝炎	0	0.0%	4	1.6%	1	0.6%	2	1.9%	7	1.2%	0.51
B型肝炎	0	0.0%	8	3.2%	16	9.0%	8	7.5%	32	5.3%	<b>0.01</b>
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	2	1.9%	3	0.5%	0.12
クラミジア	2	2.8%	22	8.9%	22	12.4%	13	12.3%	59	9.8%	0.09
尖圭コンジローマ	1	1.4%	14	5.6%	15	8.5%	10	9.4%	40	6.6%	0.12
淋病	1	1.4%	13	5.2%	13	7.3%	8	7.5%	35	5.8%	0.25
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	1	0.9%	3	0.5%	0.33
毛じらみ	7	9.7%	49	19.8%	55	31.1%	32	30.2%	143	23.7%	<b>&lt;0.01</b>
性器ヘルペス	1	1.4%	2	0.8%	4	2.3%	4	3.8%	11	1.8%	0.27
その他	1	1.4%	1	0.4%	6	3.4%	0	0.0%	8	1.3%	<b>0.03</b>
いずれもない	57	79.2%	143	57.7%	87	49.2%	41	38.7%	328	54.4%	<b>&lt;0.01</b>
追跡可能な利用者の状況											
スクリーニング判定結果の状況*											
いずれも陰性	60	83.3%	205	82.7%	150	84.7%	87	82.1%	502	83.3%	0.68
いずれか陽性	11	15.3%	40	16.1%	27	15.3%	19	17.9%	97	16.1%	
重複	1	1.4%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%	
HIV感染症*											
初めて陽性と知った	3	4.2%	7	2.8%	0	0.0%	1	0.9%	11	1.8%	0.06
陰性だった	69	95.8%	241	97.2%	177	100.0%	105	99.1%	592	98.2%	
梅毒*											
初めて陽性と知った	7	9.7%	16	6.5%	10	5.6%	1	0.9%	34	5.6%	<b>0.04</b>
既往を知っていた	3	4.2%	23	9.3%	17	9.6%	17	16.0%	60	10.0%	( 0.07 )
陰性だった	62	86.1%	209	84.3%	150	84.7%	88	83.0%	509	84.4%	
HIV感染症あるいは梅毒の新規感染状況 (再掲)											
既往を知っていたあるいは陰性だった	62	86.1%	227	91.5%	167	94.4%	104	98.1%	560	92.9%	<b>0.01</b>
初めて感染を知った	10	13.9%	21	8.5%	10	5.6%	2	1.9%	43	7.1%	
結果閲覧の状況											
未	4	5.6%	5	2.0%	5	2.8%	4	3.8%	18	3.0%	0.44
済	68	94.4%	243	98.0%	172	97.2%	102	96.2%	585	97.0%	
結果通知日から直近口グイン日までの日数 (n585,平均3.2日±7.2日,当日-63日)											
7日以内に確認	59	81.9%	212	85.5%	162	91.5%	89	84.0%	522	86.6%	0.11
8日以上経過して確認 (未確認含む)	13	18.1%	36	14.5%	15	8.5%	17	16.0%	81	13.4%	

1) 年齢階級による群間比較。( )内は2群に変数を調整した場合の結果を示す。

2) CBO(Community based organization)の団体名/コミュニティセンター名。( )内は啓発活動の主な対象地域を示す。

3) 啓発対象地域とは、北海道；北海道、東北；1道6県、東京/神奈川；1都6県、愛知；4県、大阪；2府4県、中国・四国；9県、福岡；7県、沖縄；沖縄県の居住地による。

4) 海外の内訳は、中国、台湾、韓国、ベトナム、スリランカ、インドネシア、フィリピン、アメリカ、オーストラリア、フランス、コロンビア、不明。

5) MSM(Men who have sex with men)

6) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

\* HIV感染症、梅毒は、それぞれの既往について感染したことがあると回答した人を『既往を知っていた』とした。本調査ではHIV感染症の既往はみられなかった。スクリーニング判定結果の状況は既往を含んでいる。

